

「私にとっての図書館：萬年先生のこと」

元雄 良治（金沢医科大学名誉教授、医療法人社団愛康会小松ソフィア病院腫瘍内科部長）

私は平成 27（2015）年度から平成 30（2018）年度まで本学図書館長を拝命しました。図書館長室には歴代の図書館長のお写真が飾られ、また書棚のガラスケースには日本最古の医学書である「医心方（いしんぼう）：984年 丹波康頼 撰」の写本がありました。私は東京医科歯科大学の学生時代には、情報源が限られていたこともあり、昼休みにはほぼ毎日図書館に行って、いろいろな雑誌を閲覧したり、単行本の医学書を読んだりしていました。教員の先生方もよく見かけました。また金沢大学の医局時代には、医学部図書館にあった Index Medicus で文献を検索したり、NEJM や Lancet などの最新号を読むのが好きでした。1984年から2年間の米国留学中は、勤務していたテキサス州ダラスのワドレー分子医学研究所のワンフロアが図書室で、多くの雑誌や医学書が閲覧できました。留学中に初めて英語論文を書くときも図書室で調べたりしました。しかし、その後のインターネットの急速な普及により、こうした図書館・図書室からは次第に足が遠のきました。自分のパソコンの画面で自由に論文が読めるようになり、上述のような図書館の話は、若い世代の皆さんには昔ばなしになります。また当時は論文別刷を別途注文し、良い論文であれば世界各地から別刷郵送を希望する葉書が届きました。珍しい切手が貼ってあると思わず残していたことも、今では懐かしい思い出です。

私は学生時代に脳神経解剖学の萬年 甫（まんねん はじめ）教授（1923-2011）のフランス語古典輪読会に参加していました。早朝7時半から1時間、学生有志が学年を越えて集まり、16世紀くらいからのフランス語の解剖学や神経学に関する古典を訳出していきます。バビンスキー反射で有名なバビンスキー（Babinski）はフランス語ではババンスキーと発音します。ちょうど音楽家のショパンがスペリングでは Chopin と書くのに似ています。このババンスキーの足底反射の論文（Soc Biol 1896; 3: 207-8.）がフランス語でわずか28行であることを萬年先生から教えて頂きました（萬年 甫 訳編：神経学の源流1 ババンスキーとともに、pp53-67, 東京大学出版会, 1968）。こんな短い文章でも一連の現象を過

足なく記載されているのです。そして「医学の基本は観察と記載である。君たちも基礎や臨床で観察したことを正確に記載することを徹底してやりなさい」と教えて下さいました。私はこのときのことを生涯忘れません。他にも書棚から原書を取り出して「ほら、ここに書いてあるよ」と、学生たちに本を広げて見せて下さいました。

萬年先生は大正12年生まれで、ちょうど私の父と同年でした。まさに私にとっては医学における父のような存在でした。学生時代に出会い、卒業時の進路も相談しました。私が石川県小松市出身であることから、萬年先生は東大医学部の同級生であった金沢大学第1内科の服部 信教授の教室への入局を勧めて下さいました。私の結婚式にも東京から唯一の来賓として金沢に来て頂きました。私が本学に奉職した2005年の夏に、就任祝いにと東京・目黒のご自宅に招いて頂きました。萬年先生は1955年から1957年までパリに留学されましたが、私も2002年に文科省短期在外研究員として南フランスのマルセイユに短期留学できました。少しは話がわかるだろうと、そうしたフランス関係の写真などを萬年先生は懐かしそうに私に見せて下さいました。

萬年先生も図書館長の時代があったことを知っていましたので、すでにご逝去されていたためご報告はできませんでしたが、私が本学の図書館長を拝命した時は感無量でした。時代の流れは速く、巨大な建物の中に書物を保管しておく図書館はもはや不要となり、そうした資料のデジタル化が求められています。自分の身の回りの書物も、古い資料はデジタル化して、本当に必要なものに限定するようにしています。2021年3月で私は本学を定年退職し、4月に医療法人社団愛康会小松ソフィア病院に異動しました。引越しに際しては、かなりの書物や紙媒体の資料をできるだけデジタル化した上で廃棄したので、運搬する物の量が本学赴任時とは格段の差が出ました。保管していた論文別刷も無用になったので、廃棄しました。今後の図書館のありかたをいろいろ模索した私の図書館長時代のことを振り返り、私の医学人生の中で医学古典の重要性を教えて頂いた萬年先生のことを懐かしく思い出しながら、この原稿

を書いてみました。学生の心に残る温かい教育がその後の医学人生に良い影響を及ぼすことを改めて考えた次第です。本学の創立50周年をお祝いしますとともに、「教育の金沢医科大学」としてのさらなる発展を心よりお祈り申し上げます。